

正覚寺 横浜市都筑区茅ヶ崎東3丁目12-1

天台宗の寺院で「長窪山総泰院正覚寺」と号し、文禄二年（1593年）僧快栄上人の開基とされていて歴代の宝塔もありが歴史を感じます。慶安2年（1649）には江戸幕府より寺領5石1斗の御朱印状を拝領し、本堂には、本尊の「虚空蔵菩薩」（秘仏）で御丈一尺二寸の坐像、春日親王の作と伝えられて、虚空蔵菩薩さまにお参りして智慧と福德を戴く「十三参り」を随時行っております。また脇本尊として、恵心僧都の作と伝えられている「薬師瑠璃光如来」が安置されています。

「十三参り」とは、数え年で13歳になった子供が、虚空蔵菩薩さまより智慧と福德を戴くためにお参りするという古くからの習わしです。「知恵まいり」や「知恵もらい」とも呼ばれています。山門を入ると左手に享保4年と微かに読める庚申塔と右手に安永3年と読めるお地蔵さんが迎えてくれます。また、時間になると自動的に鐘が鳴る鐘桜堂があり、花を眺めていると無人の鐘が鳴るので驚きます。また、参道の左には大鷲神社があります。



道路から直ぐに正面参道



山門を過ぎると直ぐ左手に享保と刻印のある庚申塔がある



参道の脇に、横浜の学童疎開で児童が使用した井戸と隠れ宿の石碑があった



本堂



本堂上の鷲の彫刻



正面に「虚空蔵菩薩」（秘仏）



自動で鳴る鐘楼



歴代住職の墓



墓誌歴代住職の墓誌



本堂の近くの池には花しょうぶと蓮が咲いている



あじさいはこれから



参道左に山王大鷲神社がある



中に大鷲がいた